



髭の渡し

江戸時代、武庫川を越えるには現在のような橋もなく渡しが必要でした。人々は西国街道を通り大阪や京都など主要な場所へ行き来しており、武庫川は渡らなくてはならない川の一つでした。

尼崎市常松二丁目の辺りにあった武庫の渡し場は「髭の渡し」と呼ばれており、街道沿いにある西昆陽村に旅人の休憩や舟まち場として茶屋を営んでいた店の主人、安兵衛さんの髭が立派だったことが由来となっています。安兵衛さんの茶屋は「髭茶屋」と呼ばれ親しまれていましたが、やがて渡しそのものも、「髭の渡し」と呼ばれるようになったということです。

渡しを担当していたのは、尼崎側は西昆陽、常松と西宮側の段上、上中市、下中市の5つの村で、その水量により渡しの方法や渡し賃が違っていました。徒歩で渡れるのは年間八十日ほどで、それ以外の時期は「仮り橋」「渡し舟」「れん台渡し」などの渡しを利用して武庫川を渡っていました。れん台渡しとは六人がかりで台に旅人を乗せ担ぐやり方です。旅人が一人であれば肩車等をして移動したそうです。近代になっても渡し舟による川越えは行われていましたが、明治42(1909)年、下流約三百メートルに甲武橋が完成するとその役目を終えました。

だんじょう かみおおいち しもおおいち

(参考:『むかしと今と』読売新聞阪神支局/編 阪神読売会・「武庫の散歩みち」ふるさとを知る会/編集発行)

◆ 日本人と桜

武庫川河川敷緑地では7キロに渡り桜並木が続いており、尼崎では桜の名所としても知られています。

日本人にとって桜は思い入れのある花の一つで、桜の花が開花し始めるとテレビでは桜前線の動きを連日報道します。海外では開花情報をニュースとして取り上げる点を珍しく感じるそうです。

そもそも花を愛でる行為は奈良時代に遡ります。当初は梅の花が対象でしたが、平安時代初期(812年)に嵯峨天皇が「花の宴」の会を桜で行ったと記録が残っています。やがて、江戸時代に第八代将軍徳川吉宗が隅田川や飛鳥山に桜を植え、庶民も娯楽として花見に出かけるようになりました。質素儉約を旨としていた吉宗が、庶民の気持ちを楽しませるため花見を推奨し、今日のような日本人特有の花見のスタイルが定着しました。今年も美しく咲き誇る桜は、きっと私たちを喜ばせてくれることでしょう。

(参考:『桜の樹木学』近田文弘/著 技術評論社)

● 「桜」についてならこんな本●

『尼崎さくら散歩』石人社/編集発行 310312695

『おもしろくてためになる桜の雑学事典』井筒清次/著 日本実業出版社 211792350

『サクラの一年 新装版』守矢登/著 あかね書房 221774863

<図書館の休館日> ■■■ 印の日はお休みです

4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
④	5	6	7	8	9	10
⑪	12	13	14	15	16	17
⑱	19	20	21	22	23	24
⑳	26	27	28	㉑	30	

5月

日	月	火	水	木	金	土
						1
②	③	④	⑤	6	7	8
⑨	10	11	12	13	14	15
⑱	17	18	19	20	21	22
⑳	24	25	26	27	28	29
⑳	31					



4月:卯月(うづき)

食べ物:アスパラガス、ナガイモ、レタス、イチゴ、グレープフルーツ

植物:チューリップ、スマレ、カーネーション、スイトピー、シバザクラ
季語:晩春、花衣、蜃気楼、夜桜、雀の子、鎮花祭、若草

開館時間 午前9時~午後8時 (日曜・休日(○)は、午後5時15分まで)

こどもの読書週間



2021年 第63回 4月23日(金)~5月12日(水)

標語 「いっしょによもう、いっぱいよもう」

大きい大きい紙芝居大会

【日時】 4月24日(土)
14時00分~15時00分

【場所】 3階集会室

【定員】 先着50名

【申込】 不要



ボランティアグループひまわりの会の皆さん
による大型紙芝居です。

赤ちゃんから大人の方までどうぞ！
当日、直接会場にお越しください。

ガチャガチャ本(ぽん)!

【期間】 4月27日(火)~5月26日(水)

本を借りて、ポイントをためたら
ガチャガチャを1回まわせます！
たくさん読んで、チャレンジしてみてね。



<4月展示のご案内>

一般大展示 「明治時代 文明開化と人々の暮らし」

2階展示 「尼崎今昔物語」

大人のための朗読会

【日 時】 4月21日(水) 午後2時から1時間ほど

【場 所】 3階 集会室

【内 容】 『一汁一菜でよいという提案』より
「良く食べることは、良く生きること」

土井 善晴/著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※ 状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

人を読む 泡坂妻夫

1933～2009年。東京生まれ。本名、厚川昌男。『乱れからくり』で日本推理作家協会賞、『折鶴』で泉鏡花文学賞、『蔭桔梗』で直木賞を受賞。ほかの著書に『迷蝶の島』『からくり富』『家紋の話』など著書多数。

『比翼』

泡坂 妻夫[著]/光文社

高校を卒業して十年の節目の同窓会旅行に参加した根山。翌日、峡谷行きのバスに乗り遅れたために予定より早く東京へ戻る。時間つぶしに入った美術館で見知らぬ女が声をかけてくるが...。表題作ほか、奇術の妙「胡蝶の舞」・怪異譚「思いのまま」など10編を収録。

『妖盗S79号』

泡坂 妻夫[著]/河出書房新社

鮮やかな手口で次々とお宝を盗み出す犯人は、警視庁の捜査ファイルの番号からS79号と名付けられる。専従捜査班も組織されるが、世間では連続猟奇殺人事件も発生し大混乱。S79号専従捜査班は神出鬼没の怪盗を逮捕することができるのか？S79号の正体とその目的とは...。

『大江戸奇術考』

泡坂 妻夫[著]/平凡社

奇術は人をだますのが目的の危うい芸能だが、悪意の嘘と違うのは「これからあなたを騙しますよ」と宣言してトリックを使う点である。そんな奇術の歴史に始まり、手妻と呼ばれる日本独自の奇術が花開いた江戸時代の手練技。“からくり”や奇術と料理の関係など、著者が案内する奇術の世界。

『トリュフとトナカイ』

泡坂 妻夫[著]・金子 真理 [画]
/岩崎書店

トリュフについての口論をきっかけに、シェフを山に案内することになる表題作「トリュフとトナカイ」。ホテルの前の湖畔で殺人事件が起こり、スキーに来ていた女性2人が疑いを晴らすため犯人探しをする「蚊取湖殺人事件」。ほか「金津の切符」「開橋式次第」を収録。
【小学5～6年生】

紋章上絵師の家業を続けながら推理小説を執筆し、1976年に作家としてデビュー。奇術家としても知られ、創作奇術に貢献した人に贈られる石田天海賞を受賞している。

● 紋章上絵師 ● 日本の民族衣装である冠婚葬祭の和装式服・七五三・宮参りの初着などに家紋を手描きにより描きあげてを「上絵(うわえ)」といいその技術者。

児 童 室 4 月

おはなし会



土曜日

おひざのうえのおはなし 午後2:00~
 小さい人 (ようちえん) 午後2:15~

場所: 3階集会室

4/3 (土)

● おひざのうえ
 「パンツのはきかた」
 「おさじさん」

● 小さい人

「ふうとはなとうし」
 「おいしいおかゆ」

4/17 (土)

● おひざのうえ
 「おべんとうバス」
 「くつしたしろくん」

● 小さい人

「ぞうくんのさんぽ」
 「ふしぎなたいこ」



4/24(土)
 「大きい大きい
 紙芝居大会」
 あいませ! 先着50名
 14:00~15:00
 3階 集会室



水曜日

あかちゃんひろば

(第1・第3水曜日)

場所: 1階絵本コーナー

4/7 (水)、4/21(水)
 午前11:00~11:20

0歳~2歳くらいのお子さんと
 保護者向け

赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊び



日曜日

(第2・第4日曜日)

場所: 1階ロビー

4/11(日)、4/25(日)
 午前11:00~11:20
 2歳くらいから

4

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7 	8	9	10
11 	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21 	22	23	24
25 	26	27	28	29	30	



今月の展示

『はるのほん』

「大きい大きい 紙芝居大会」